

1 サウンディング実施の経緯

静岡県経済連小笠食肉センターで現在稼働している汚水処理施設の老朽化が進行しているため、既存施設を解体した跡地に新たに汚水処理施設を建設する計画をしています。

本工事は、限られた敷地条件の中、食肉センター施設を稼働しながら、既存施設をスクラップアンドビルドにより進めていくことや、大動物処理棟の増築、改修工事が同時並行で進行していることなど、工程調整、施工計画に課題を抱えています。

また、食肉センターの汚水処理という、周辺環境にも十分に配慮した専門的かつ高度な水処理技術が求められます。

本調査は建設事業者との対話により、技術提案・交渉方式を採用した場合の建設工事への参入可能性や事業条件、スケジュールの妥当性等の実情を把握・検証し、適正な工事発注を検討するために実施しました。

2 サウンディングの実施スケジュール

サウンディング実施要領の公表：令和7年1月20日(月)

サウンディング実施の期間：令和7年1月29日(水)～令和7年2月14日(金)

サウンディング結果概要の公表：令和7年4月18日(金)

3 サウンディングの参加者

合計：3者

4 サウンディング結果の概要

サウンディング結果は下表のとおりです。

なお、参加者推定や競争阻害の要因になるとと思われる内容の公表は行いません。

対話の対象項目	対話結果概要
1 受注形態	<p>(1) 管工事単独元請（下請 各専門工事業） 受注可否：「可」1者、「否」2者 ＜主な意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の性能等に係る責任の所在が明確になる ・元請が県外業者になるので下請含めて地元業者が入れない可能性がある <p>(2) 建築一式工事単独元請（下請 管工事業） 受注可否：「可」1者、「否」2者 ＜主な意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建築工事業者では施設の性能担保や改善提案が難しい <p>(3) 異業種JV（主たる構成員 管工事業） 受注可否：「可」1者、「否」2者 ＜主な意見＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設の性能等に係る責任の所在が明確になる

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内業者を J V 構成員とすることができる ・ 工事の主体は建築構造物なので建築業者主体の方が進めやすい <p>(4) 異業種 J V (主たる構成員 建築工事業)</p> <p>受注可否：「可」 1 者、「否」 2 者</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 建築主体の方が現場がスムーズに進む ・ 主たる構成員が性能担保することが難しいので、J V 解散後の責任の所在に不安がある <p>(5) その他意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特殊性が高いプラント工事なので、性能を適切に発揮することができる業者が元請になる必要がある ・ 特殊な場所の工事なので経験が豊富な工事業者を選定するのが絶対条件である
2 発注方式	<p>(1) 分離発注 (設計・施工分離発注)</p> <p><メリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な積算を行うことができる ・ 責任の所在がはっきりする <p><デメリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施工者のノウハウを発揮できない ・ 設計事務所に性能を担保するので稼働後の不具合に対応しにくい ・ 工事業者の選定に時間がかかる <p>(2) D B (設計・施工一括タイプ)</p> <p><メリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施工と維持管理を考慮した設計が可能 ・ 施工者のノウハウを設計に反映できる ・ 工事業者の選定時間を短縮できる <p><デメリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実施設計後の工事金額変更が難しい ・ 設定金額内での提案しかできない <p>(3) E C I (技術提案・施工タイプ)</p> <p><メリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施工者のノウハウを設計段階から協議できるためコスト縮減が期待できる ・ お互いの不得意を補うことができる <p><デメリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 分離発注に比べて配置予定技術者を早期に決定する必要がある ・ 設計事務所に性能を担保するので稼働後の不具合に対応しにくい <p>(4) D + B (設計交渉・施工タイプ)</p> <p><メリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施工と維持管理を考慮した設計が可能 ・ 施工者のノウハウを設計に反映できる

	<ul style="list-style-type: none"> ・工事金額の増減協議ができる <p><デメリット></p> <ul style="list-style-type: none"> ・DBに同じ <p>(5) 希望する方式</p> <ul style="list-style-type: none"> <分離> 1票 <DB> 2票 <ECI> 1票 <D+B> 2票
3 技術提案	<p>(1) メンテナンス性向上に係る提案の可否 「可」1者、「否」2者</p> <p>(2) 既存施設への影響に係る提案の可否 「可」1者、「否」2者</p> <p>(3) 追加提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存工事[*]との調整方法に係る提案
4 工期	<p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・既存工事[*]との連携及び協議が必要 ・令和8年度は既存工事[*]と重複するため、汚水処理工事を既存工事[*]に影響がない時期にずらす等の計画が必要 ・今回の条件では工事の3年計画は妥当
5 施設全般	<p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設運営に支障のない施工方法検討のための調整が大切 ・既存工事[*]及び生産用トラックとの動線計画の調整が必要
6 その他	<p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食肉センターの排水は一日の水質変動が大きい高濃度排水のため、一般的な浄化槽を扱う業者では施設検討を行うことが困難 ・標準的な設計指針が無い本件のような施設は、各社各様の技術を用いた設計となることから、性能発注が一般的である ・既存工事[*]と生産活動との工事調整がかなり難しい工事である

※既存工事とは食肉センター新築他工事、調整池工事、道路拡幅工事等をいう

5 サウンディング結果を踏まえた今後の方針

今回のサウンディング型市場調査において受注形態、発注方式及び工期などについて具体的な意見をいただき、技術提案・交渉方式による事業執行が可能であることがわかりました。

今後、調査の結果を踏まえ、どのタイプを採用するか決定したうえで、技術提案・交渉方式による事業者公募を実施する予定です。